



## 第 1399 回例会報告

平成27年2月5日(木)雪

### 会長挨拶

会長 吉澤邦雄

### 人道支援

このところ日本中を震撼させた卑劣極まりない「イスラム国」による邦人人質事件をめぐるニュースが飛び交っており、残虐な行為に怒りを覚えその結末には心を痛めた方も多いと思います。今まで余り身近には感じてこなかったテロも、「いよいよここまで来たか」という怖い思いがいたします。

話は少し変わりますが、最近フランスの経済学者トマ・ピケティの「21世紀の資本」という本が世界的なベストセラーになっております。皆さんも一度はお聞きになったことがあるのではないのでしょうか。私自身まだしっかり読んだわけではありませんが、従来のトーマス・フリードマンによる「フラット化する世界」つまり「世界はフラット化に向かっている」という考えに対極する「資本主義社会は格差が拡大する」という考え方です。

端的にいいますと、資本主義には富の集中を止めるメカニズムがなく、資本の収益率は国民所得の成長率より高いため、資本と所得の差が開き、格差の拡大が進む。さらに「民主主義の敵、不労所得生活者」と少し過激な表現もつかい、急進的な課税(富める者に課税等)により再分配を求め

これらのについては少々“大衆受けする内容”が強

調されてもおり賛否両論あるところでもあります。また私には難しすぎて理解できない点多々あり、資本主義社会を良とする立場に変わりなく、全てを納得しているわけではありませんが、世界総人口のわずか一割の人間が世界の富の約70%を持っているという現実を知っておく必要もあります。というのも極端な格差社会(格差世界)が生んだ歪み(貧困等)が今日のイスラム社会等における紛争の一因とも考えられているからです。

今回のテロ事件を始めとした国際的な紛争問題に対処するためには、難民や貧困者に対する食糧・医療・教育といった人道支援の必要性はますます重要になっていくと思います。少し話は飛躍するかもしれませんが、こうした極端な格差を是正するためにもビル・ゲイツ財団の様に世界の大富豪と呼ばれる方々には、人道支援等にもっと力を注ぎ、世界平和のために多少なりとも富の再分配をしてもらいたいと思いますがいかがでしょうか。暴力と憎しみの連鎖を無くすためにも、世界平和を標榜する国際ロータリーの果たす役割は沢山あるように思います。

## 1399回例会

### ロータリー財団と米山奨学会について

国際奉仕委員会

ロータリークラブは 1905 年に設立され、その目的も当初の仲間づくり、互恵関係の構築から2年

#### ■出席報告

会員数	38名
出席対象	37名
出席者数	30名
出席率	81.8%
前回修正	94.5%

#### ■ニコニコBOX

6名	21,000円
累計	351,000円
目標額	60万円
達成率	58.5%

#### ■今週のことば



2014-2015年度 国際ロータリーテーマ

ロータリーに輝きを

Light Up Rotary

ウィークリーの原稿送付先は PR@suwakorc.net です

後には地域社会への貢献(シカゴ市に公衆便所をつくる)へと進展しました。



1910年にはシェルドンが  
“He profits most who **serves**  
**fellows** best”(仲間に最も奉  
仕する者良く報われる)という  
標語を作り、1911年にはフラン  
ク・コリンズが“Service **not**

**self**”(無私の奉仕)概念を提起しました。そしてシェルドンの標語も“**He profits most who serve best**”(最も奉仕する者最も多く報われる)に変わりました。これは serve(奉仕)という言葉には神とか社会に奉仕するという対象を含んだ言葉で、ロータリーにおいては「人類」という対象を含んだ言葉と理解すべきでしょう。1916年にはコリンズの“**not self**”(無私)は“**above self**”(超我)に置き換えられました。「無私」と「超我」はどう違うのか・・・無私:私を消して(殺して)奉仕せよ、超我:私を越えて奉仕せよ・・・超我は無私ほど厳しくありません。私もそこに存在します。私にとっても良く、対象にとっても良くという現実的な人間個人の存在を認めているように思えます。

1923年には有名な決議 23-34として、これらの標語が奉仕哲学、実践理論原理として、採択され、創立以来18年経過して奉仕概念が構築されました。私と私の仲間のためのロータリーから全人類のためのロータリーとなったのです。

日本のロータリークラブは1920年に東京に設立され、大阪、神戸、名古屋、京都、横浜と大都市での設立が続き、2013年12月には2280クラブ88064人の会員となっています。

### ロータリー財団について

さて、本題のロータリー財団ですが、こうしたロータリーの歴史を背景に設立されました。そもそも財団はロータリーの奉仕プロジェクトの資金調達機関です。プロジェクトの原資となる資金は、ロータリアン個人やクラブが提供しなければなりません。ロータリー財団から国際財団活動資金(WF)、あるいはロータリー財団から地区に供与されず。

ロータリー財団の歴史を振り返ってみると、第一

次世界大戦の折に、イギリスに渡ったロータリアンの子弟をイギリスのロータリアン家庭がホストしたことに始まり、さらにヨーロッパ各地に避難民に物資援助や、傷病兵慰問、復員してくる軍人に対するボランティア活動と続きまいた。



そして1917年、アーチ・クラ  
ンフというロータリアンが「ロー

タリーが基金をつくり、全世界的な規模で慈善、教育、その他、社会奉仕の分野で、何かよいことをしようではないか」という提案をし、「アーチクラ  
ンフ基金」が設立されました。そして1928年には「ロータリー財団」と名称を変えたということです。

1962年アジアからの初めてのRI会長、ニッティシ・ラハリーさんがロータリアンの心情として「世界のどこかの片隅に、一人でも不幸な人がいる限り、我々ロータリアンは幸せになることはできない」と述べ「世界社会奉仕概念」を提唱しました。

日本では有名な決議 23-34ですが、しばしばロータリアンにおいて“I serve”か“We serve”かとか、ロータリーは「自己研鑽・奉仕の勉強(入りて学び、出でて奉仕せよ)」か「クラブとしての実践奉仕活動」か、とか論争の的になっていますが、大事なことは「奉仕する者は行動しなければならない:ロータリーとは単なる心構えのことをいうのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的のものであってはならず、それを客観的な行動に表さなければならない。そして、ロータリアン個人もロータリークラブも、奉仕の理論を実践に移さなければならない。というところにこそ意味があると思っています。

決議 23-34から90年、2012-13年度RI会長田中作次氏は『世界で良いことをしようと言うだけでなく、実際に行動で示すことが重要です。』と述べています。この指摘は「行動を伴わないロータリークラブになっているという危機感」だろうと思います。「やらない! やれない!! 理由を見つけることは容易い!!! のです。やろう! やるぞ!!! という勇気を掻き立てて取り組む」のがロータリアンではないかと私は思います。無論人間それぞれ器量と言うものがあります。即座に器量の二倍三

倍は無謀です。110%、120%なら器量をのばすことができます。

ロータリーの国際奉仕の分野には

- ① 世界社会奉仕活動
- ② 国際レベルの教育及び文化活動 a ロータリー友情交換 b 世界ネットワーク活動グループ c 国際青少年交換
- ③ 特別月間と催し
- ④ 国際的な会合
- ⑤ 海外姉妹クラブとの国際交流等があります。

なかでも重要な活動は世界社会奉仕活動(WCS)です。国や行政が地域社会のニーズを満たせない発展途上国や開発途上国で、ロータリークラブも資金の制約等で奉仕活動が実践できない場合に、援助を海外の地区やクラブに求め、協力して奉仕活動を行うのが世界社会奉仕活動です。

そして、世界社会奉仕活動の要件として

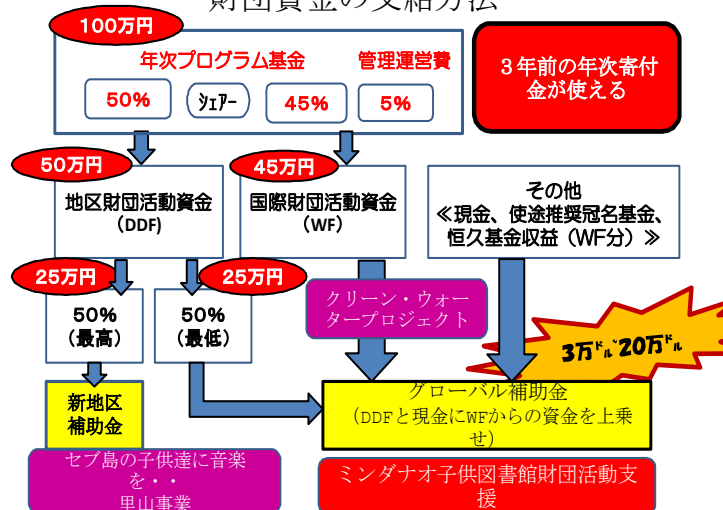
- ① ロジクトが人道的奉仕活動であること
- ② 2カ国以上のロータリーが関与すること
- ③ プロジェクトはこのうちいずれか1カ国で実施されることが示されています。

さて人道的奉仕活動とはどんな活動でしょう？人道主義は人間性を重んじ、人間愛を実践し、あわせて人類の福祉向上を目指す立場とされています。具体的には食べることが出来る、病気になったら治せる、学校に行って教育を受けられるといったことではないでしょうか。

世界社会奉仕活動の恩恵は「援助される側の人々だけではなく、活動に参加した私達ロータリアンもこうむることを実感して下さい。私達の活動によって助けられた人々の喜びを目の当たりにする時、私達奉仕を実践したロータリアンも大きな喜びを手に入れる事ができます。さらに国際理解や親睦を一層深めていく事ができるのです。奉仕の相手だけではなく、奉仕をした自分も満たされるのが、真の奉仕です。」と示されています。

地区世界奉仕委員会委員長、渡邊さんは「こんな幸福な境地になれるのは、奉仕を実践し、人々の喜びに共感する時です。世界社会奉仕活動はその絶好の機会です。」と述べています。

財団資金の支給方法



財団資金の支給方法は上図の通り、3年前の年次寄付金の95%が地区に返還され地区財団活動資金(DDF)として、また国際財団活動資金(WF)として事業申請した各クラブに補助されます。諏訪湖RCでは今までに新地区補助金として「里山整備事業」「セブ島支援事業」に、またWF資金は「クリーン・ウォーター・プロジェクト」に活用しました。

しかし活用されなかった資金は、再度、ロータリー財団へ返還され、恒久基金に組み入れられているとのことです。

グローバル補助金 Global Grants はロータリーの6の重点分野に該当し、持続可能かつ測定可能な成果をもたらす大規模な国際的活動を支援します。補助金プロジェクトのスポンサー(提唱者)は、国際的なパートナーシップを組み、各地の地域社会のニーズに取り組みます。

- 6の重点分野は① 平和と紛争予防/紛争解決 ② 疾病予防と治療 ③ 母子の保健 ④ 水と衛生設備 ⑤ 基礎教育と識字率向上 ⑥ 経済開発と地域開発 です。

現在2600地区内では、地区国際奉仕委員会事業としての「ミンダナオ子供図書館財団活動支援」、松本空港クラブの「フィリピン・ルソン島マニラ近郊の貧しいコミュニティの子供達の就学援助事業」、地区ロータリー財団小委員長、村井さんの呼びかけによる「東南アジアにおける歯科医療奉仕」などが企画されていますが、松本空港クラブは現地ロータリークラブとの連携がうまく行かず、断念したとの情報が入っています。

## 米山奨学会について



次に米山記念奨学会ですが、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した実業家米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。1952年、東京ロータリークラブが海外から優秀な学生を日本に招き、勉学を支援する事業「米山募金」の構想を発表しました。

二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、国際親善と世界平和に寄与したいという、当時のロータリアンたちの強い願いがありました。そして1967年(財)ロータリー米山記念奨学会が設立されました。

現在、50年以上の歴史を持ち、RIから認証を受けた日本のロータリー独自の多地区合同奉仕活動です。現在も、将来の日本の生きる道は平和しかない。その平和日本を世界に理解させるためには、アジアの国々から一人でも多くの留学生を日本に迎え入れて、平和日本を肌で感じてもらうしかないと進められています。日本国憲法の平和を希求する精神がロータリアンに、しっかりと意識されている！！と思います。

### 米山奨学会の目的

米山記念奨学会は、将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。優秀とは(1)学業に対する熱意や優秀性はもちろんのこと、(2)異文化理解 (3)コミュニケーション能力への意欲や能力に優れている点が含まれます。

米山奨学生は、ロータリークラブを通して日本の文化、習慣などに触れ、社会参加と社会貢献の意識を持ち、将来ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人となることが期待されています。

また、米山奨学会事業は、民間最大の奨学事業で、年間の奨学生採用数は700人、事業費は13.6億円(2012-13年度決算)で、国内では民間最大の国際奨学事業となっています。今日までに支援してきた奨学生数は累計で17,545人(2013年4月現在)。その出身国は、世界121の国と地域に及びます。

個人寄付への表彰は

② 3万円、準米山功労者 感謝状 なし

②10万円 第1回米山功労者 感謝状【青色】

③20万～50万円(以降10万円毎に) 感謝状【銅色】

④60万～90万円 第2回～第9回 米山功労者マルチプル 感謝状【銀色】

⑤100万～390万円 第10回～第39回 米山功労者メジャードナー 感謝状【金色】となっています。

(財)ロータリー米山記念奨学会は「特定公益増進法人」として認定されているため、当会に対する特別寄付金は、所得税(個人)、法人税(法人)の税制優遇が受けられます。また、相続税も非課税となります。

諏訪湖ロータリークラブの実績ですが、ロータリー一財団への協力では、26期 \$2,000 27期 \$7,551 28期 \$4,275 29期 \$2,500 30期 \$8,861 5期の合計 \$25,187です。また2012年6月時、創立以来の累計で\$198,155.24(2,338万)に達しています。2600地区55クラブ中17位で25周年時19位から上昇しています。

米山奨学会への協力では、26期 ¥290,000 27期 ¥250,000 28期 ¥490,000 29期 ¥370,000 30期 ¥1,194,000 5期合計¥2,594,000.です。

2014年7月時点で、クラブ及び特別寄付の創立以来の累計では2,561万円が積み上げられていて、地区内順位では17位です。

ロータリー財団及び米山奨学会寄付は、地区内29番目の創立クラブとしては良く頑張っていると言えます。周年単位で表彰を受けられるような毎年の積立をお願いします。



最後に、心の片隅にニッティシ・ラハリーの世界のどこかの片隅に、一人でも不幸な人がいる限り、我々ロータリアンは幸せになることは出来ないを置いて、時々、今夜の遊びを我慢して・・来週のゴルフも我慢して・・みなさんからの善意のご寄付をお待ちしています。